

# 新型コロナウイルス感染症 クラスターの振り返り

2020年3月、当院で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生しました。患者様やそのご家族、近隣の医療・介護施設や地域の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしました。転院された患者様および入院患者様や職員、あわせて24名もの発生となりました。クラスター発生時は、これまで経験したことの無い事態に戸惑いや混乱もありましたが、保健所や厚労省クラスター対策班、国立病院機構本部及び九州グループの助言等を受け、職員一丸となり取り組み、収束させることができました。

その経過と現在の新型コロナウイルス感染症対策をご紹介したいと思います。

## クラスター発生～収束までの経過

- 3月19日** 入院患者 A 氏の家族が陽性と判明  
濃厚接触者として A 氏も検査したところ陽性の結果  
計2名陽性  
入院患者の濃厚接触者の調査開始  
救急外来を含む外来受け入れ停止、新規入院中止、手術・検査中止
- 3月20日** 転院患者、職員の計10名陽性
- 3月21日** 保健所職員、厚労省クラスター対策班来院  
転院患者、職員の計3名陽性
- 3月22日** 入院患者、職員の計3名陽性
- 3月23日** 職員濃厚接触者1名陽性
- 3月24日** 入院患者、職員の計3名陽性
- 3月25日** 職員2名陽性
- 3月26日** 入院患者、転院患者、全職員計726名のPCR検査施行  
以後、症状のある患者にはPCR検査実施するが新規患者発生なし
- 4月14日** 手術や検査、リハビリ再開
- 4月22日** 外来診療、入院受け入れすべて再開



3月19日の対策本部の様子



会議室 ここで対策の検討が行われました



検体採取

## 感染対策

### — 外来 —

- 1 外来診療予定の方は、マスクを着用し非接触型体温計で体温測定を行い、症状のチェックをします。
- 2 発熱など症状がある場合は、専用待合スペースで待機します。
- 3 外来での密を避けるため、受診予約体制とし受付時間を分散、待ち時間の短縮に努めています。  
また、外来待合は密を避けるためいすの間隔をあけています。
- 4 総合受付や薬剤部のお薬渡し窓口では、飛沫防止のためアクリル板を設置しています。

### — 入院 —

- 1 入院前日に電話で2週間前からの体調を確認します。
- 2 入院当日も外来で体温測定や症状を確認、診察後入院となります。
- 3 緊急入院時は、新型コロナウイルスの検査や胸部CT、採血を行い結果が判明するまで個室に入院します。
- 4 転院や施設へ退院する場合は、原則胸部CT、もしくは抗原検査を実施しています。

### — 面会について —

- 1 面会は原則禁止とさせていただきます。病院から許可があるご家族のみご面会は可能。  
面会ができない場合は、TV電話での面会も可能です。
- 2 面会前に体温測定と体調のチェックがあります。

### — 職員 —

- 1 全職員、勤務中はマスクを着用しています。
- 2 全職員、毎日体温測定など健康チェックを実施しています。体調不良時は勤務しません。
- 3 よく触る場所の環境消毒を毎日実施しています。
- 4 職員の休憩時は3密を避けるため、時間差を設け少人数で換気を行っています。
- 5 手指消毒剤は個人携帯もしており、適切な場面での実施を行っています。



診療前に体温チェックや症状の確認をします



総合受付窓口にアクリル板を設置しています



TV電話による面会



医師や看護師はもちろん  
職員のほとんどが  
手指消毒剤の個人携帯  
をしています

たくさんのあたたかいご支援や応援メッセージをいただいています



クラスター発生当時は厳しいお言葉も多々ありましたが、それ以上に多くの方々から暖かいお言葉やご支援もいただき、今でも続けていただいている方もおられ深く感謝しております。

感染対策は日々の継続実施が大切です。新型コロナウイルスの流行が始まりもうすぐ1年となり、「コロナ疲れ」もあります。しかし、今冬はインフルエンザとの同時流行も懸念されています。手洗い、咳エチケット、3密を避ける等、冬に向かってさらに感染対策を確実に実施し、感染症の蔓延が起きないように職員一同取り組んでいきます。

文責 感染管理認定看護師 園田淳子